

研究課題名	大腿骨近位部骨折術後における入院中の転倒・転落の実態と危険因子の後方視的検討
試料・情報の利用目的・利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	大腿骨近位部（太ももの付け根に近い部分）の骨折は、高齢者に多く見られる骨折で、骨がもろくなる「骨粗しょう症」が背景にあります。この骨折は、一度起こると次の骨折も起きやすくなるという特徴があります。特に手術を受けた後の1年以内に、再び骨折してしまうことが多く、最初の骨折の時点から再発を防ぐ対策を始めることが大切だとされています。手術後の入院中は、足の力が弱くなったり、痛みがあったり、状況の把握ができず一時的に混乱した状態になったり、慣れない生活環境に戸惑ったりすることがあり、その影響で転んだりベッドから落ちやすくなります。 これまでも、病院内での転倒についての報告は多くありますが、大腿骨の骨折の手術を受けた方に限って、入院中にどのように転倒・転落が起きているか、またそれがどんな人に起きやすいのかを詳しく調べた研究は国内にあまりありません。 そこでこの研究では、手術後14日以内という特に注意が必要な時期に注目し、転倒や転落がどのような状況で起きているのか、また、どのような患者さんが転びやすいのかを院内で記録されている過去の情報から調べます。これにより、早い段階からの予防策や支援のあり方を科学的に明らかにすることを目指しています。 この研究の結果は、転倒や再び骨折する危険性が高い患者さんを早く見つけ出し、適切な対策をとるために役立つと考えています。
研究対象者	2020 年 1 月から 2024 年 12 月の間にベルランド総合病院整形外科に大腿骨近位部骨折を受傷して入院し、手術加療を受けたかた
利用又は提供する試料・情報の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。 術後の転倒転落の実態 ①発生の有無（手術後の入院中に転倒や転落をした） ②発生の状況（時期；術後何日目，場所：病室，トイレ，廊下など，時間帯：何時） 術前で得られる情報 ①年齢、性別、BMI（身長と体重で算出される。やせや太り気味などが分かる） ②骨折の種類（どの部分が骨折したのか） ③術式（どのような手術をしたのか） ④手術待機日数（入院から手術までの日数） ⑤血液検査：Hb、Alb、CRP、25(OH)D（栄養状態や炎症状態） ⑥反対側の大腿骨近位部骨折の既往歴（過去に同じ骨折をしたのか） ⑦受傷前の所在（骨折前に住んでいた場所） ⑧歩行能力（骨折前にどのような歩行補助具を使用して歩いていたか） ⑨転倒・転落アセスメントスコア（入院時の看護師の評価）
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2025 年 7 月 31 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者の範囲	この研究はベルランド総合病院 FLS 推進室のみで行います
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は機関の名称	ベルランド総合病院 クオリティ管理センター FLS 推進室 田中暢一
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはございません
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 クオリティ管理センター FLS 推進室 田中 暢一 メールアドレス：nob_tanaka@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL：072-234-2001（代）